第10講　む・むず・じ

PART1　む・むず

む・むず（＝「　　・　　ず」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	む	○	○	む	む	め	○	四段型
形	むず	○	○	むず	むずる	むずれ	○	サ変型

【意味】　＝「スイカかえて」

①　推量（～だろう）
②　意志（～よう）
③　勧誘（～ませんか）
④　仮定（～としたら）
⑤　婉曲（～ような）
⑥　適当（～するのがよい）

〈見分け方〉　＝「　　　　」か「　　　　」に分ける。

○「　　　　」＝「仮定」・「婉曲」
○「　　　　」＝「推量」・「意志」・「勧誘・適当」

★**「文中」**の「む」の意味

○ 〜む＋**体言**→「　　　　　　」

○ 〜む＋助詞→「　　　　　　」

★**「文末」**の「む」の意味→文脈判断。目安として**主語**確認。

○ **一**人称→「　　　　」

○ **二**人称→「　　　　　　」

○ **三**人称→「　　　　」

※**「勧誘・適当」**の「む」の主語＝必ず「　　　　」になる。

※「　　　　」**の上の「む」**＝「　　　　」が多い。　（例）　翁の、孫を見む|と思ひけむは理なり

※ 「こそ〜**め**」の「**め**」
「て**む**」の「**む**」
「な**む**」の「**む**」　＝「　　　　・　　　　」が多い。

第10講　PART1　確認問題

①　助動詞「む・むず」に関する説明文の空欄a・bに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

助動詞「む・むず」には、「推量・意志・勧誘・仮定・婉曲・適当」の意味がある。文中で使われており、下に体言が続く場合は［a］、助詞が続く場合は［b］の意味になることが多い。

ア　a　婉曲　b　仮定　　イ　a　婉曲　b　意志　　ウ　a　適当　b　仮定　　エ　a　適当　b　推量

②　「思はむ子を法師になしたらむこそ心苦しけれ。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　推量　　イ　意志　　ウ　勧誘　　エ　仮定

③　傍線部a・bの説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「いま、秋風吹かむ[a]をりぞ来むとする[b]。待てよ。」といひおきて、…

ア　aは適当「む」の連用形、bは推量「む」の連体形である。
イ　aは仮定「む」の連用形、bは婉曲「む」の連体形である。
ウ　aは意志「む」の連体形、bは仮定「む」の終止形である。
エ　aは婉曲「む」の連体形、bは意志「む」の終止形である。

④　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

おのづから正直の人、などかなからむ。

ア　主語が二人称なので、文法的意味は意志である。
イ　主語が二人称なので、文法的意味は勧誘である。
ウ　主語が三人称なので、文法的意味は推量である。
エ　主語が三人称なので、文法的意味は婉曲である。

⑤　傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

翁、かぐや姫に言ふやう「…翁の申さむことは聞き給ひてむや。」

ア　推量　　イ　意志　　ウ　適当・勧誘　　エ　仮定

第10講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「む・むず」が文中で使われており、下に体言が続く場合は、婉曲になることが多い。文中で使われており、下に助詞が続く場合は、仮定になることが多い。よって、アが正解。

② 文中の「む」なので、仮定か婉曲。下が体言でなく助詞なので、仮定から考える。選択肢に婉曲がないことからも、仮定と判断できる。よって、エが正解。

③ a文中の「む」なので、仮定か婉曲。下が体言なので、婉曲で見当をつける。b「と」の上の「む」は意志となることが多い。「秋風が吹くような折に来よう」と訳すと自然なので、a婉曲、b意志と判断できる。よって、エが正解。

④ 文末の「む」の意味は、文脈で判断する。目安として主語を確認するとよい。主語が「正直の人」で三人称なので、「む」は推量。よって、ウが正解。

⑤ 「こそ〜め」の「め」、「てむ」の「む」、「なむ」の「む」は、適当・勧誘になることが多い。「翁の申し上げることは、お聞きになってくださいますか」という訳。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア
② エ
③ エ
④ ウ
⑤ ウ